

行政視察の報告

欧州都市行政調査報告

遠地和明
高木昭夫

全国市議会議長会の主催による平成十六年度欧州都市行政調査団の一員として、平成十六年六月三十日から七月九日までの十日間にわたり欧州（英国、ノルウェー、オランダ）の各都市を訪問した。



◎英国
七月一日(木)
ハンマースミス区「行政評価制度とその成功事例」

ハンマースミス区は、インナーロンドンにある区のひとつで人口は十五万七千人、多くの人種が住み失業率の高い地域や低い地域など、さまざまな顔を持つっている区である。

区では、必要なサービスとそうでないものとの見直しを大胆に行い、それと共に全体を見通したマネジメントの必要性を感じ、政府がベストバリュウ政策を導入すると同時に業績指標の導入を行い、実施している。

基本目標を「コストの削減、品質の大幅向上」とし実施している。英国の中でも「行政評価の成功事例」と呼ばれており、日本の自治体にとって見本となるものである。

七月二日(金)
バッキンガムシャー県議会公式訪問
「リーダーと議院内閣制度」

バッキンガムシャー県は、ロンドンの北西に隣接する地域にありながら、南部一帯にグリーンベルトと呼ばれる開発規制地域が広がる、緑豊かな場所である。

英国の現在の地方議会は、政策決定と執行の役割を兼ね備えているが、この制度では意思決定過程が明確でなく、責任の所在も不明確になりがちである。

このことから県では、政府の提案した新しい自治

治体運営のモデルから、リーダーと議院内閣制度を選択した。この制度では、内閣にかなり意思決定の力が集結するので住民ニーズに迅速に対応でき、効果的に運営されている。

◎ノルウェー王国
七月四日(日)
オスロ市内「サンタンハウゲン高齢者福祉施設」

長い間ノルウェーでは、市営の福祉施設を運営するために、市の職員を充てていたが、市の予算は増える一方でサービスの向上が図れない状況があった。

オスロ市では、一九九〇年代中頃から民間会社に高齢者福祉施設を委託し運営できるように制度を改め、入札により委託している。

七月五日(月)
フレデリクスタ市議会公式訪問「環境都市」

フレデリクスタ市は、人口七万人でオスロ市から南に車で一時間二十分程度走ったところであり、ノルウェー環境省が選定した環境都市のひとつである。

市では、環境都市として選定を受けてから、持続可能な都市づくり、景観づくり、廃棄物処理などの環境整備に積極的に取り組んでいる。

環境問題への取組状況や、ごみ焼却施設における環境対策について調査した。

◎オランダ王国
七月六日(火)
オランダの介護保険制度

日本が介護保険を導入した際に、お手本としたドイツが、オランダの介護保険制度や介護保険サービスをベースとしたといわれている。

オランダの介護の基本的な考え方は、「人は住み慣れた場所で、家族や友人とともに生活をおくるべき」ということであり、そうした姿勢で介護



サービスに取り組んでいる。そうした中で起こりうる諸問題について、オランダ介護福祉研究所のピーター・ハイバース氏より講義を受けた。

七月七日(水)
ハウテン市議会公式訪問「未来都市開発地域」

ハウテン市は、アムステルダムから南東に約四十五キロメートルのところであり、人と環境に優しい画期的な街づくりを行っている都市として、世界的に注目を集めている。

ハウテン市の人々が住んでいる居住区内及び居住区間の移動は、すべて自転車、徒歩、またはバ

ス利用となっており、自転車道は背骨のように町の中心の商業地区や住宅地区を走っている。両脇には緑が植えられている。

自動車利用が減って、騒音が少なくなり、酸性雨なども減り、他都市に比べ五倍の安全性があるといわれており、人と環境にやさしい町である。

七月八日(木) アムスフオート市「世界一のソーラータウン」

国土の四分の一が海拔〇メートル以下にあるオランダにとって、地球温暖化による海面水位の上昇は死活問題である。

地球温暖化防止の糸口を示す未来都市、アムスフオート市のニューランド開発地区においては、約五百世帯の一般住宅をはじめ、学校やスポーツセンターなどあらゆる新築建物にソーラーシステムが設置され、その総量は、一、〇〇〇キロワットを超えている。

訪問先では、市長をはじめ多くの方々から、地方行政のあり方や環境問題、福祉施策などについてご教示いただくとともに、親切に対応していただき感謝している。

伝統の重さを感じることでできる町並み、環境問題に真剣に立ち向かう謙虚さ、人が人として最後まで尊厳をもって生きられる社会、これらを目の当たりにし感動の十日間であった。

研修の成果を、今後の議会活動を通して市民の皆様へ還元していきたい。



議会運営委員会行政視察報告

日時／八月三十日～九月一日

視察地／北海道函館市、北海道苫小牧市

北海道函館市と苫小牧市では、代表質問や当初予算の審査方法など「議会運営」全般について、調査研究を行った。各市議会では、議会運営の考え方やそれらの背景について詳細な説明を受け、質問を行った。特に、函館市は周辺四町村との合併を十二月一日に予定しており参考となる部分が多かった。来年二月の合併に向けて、議会運営や申し合わせ事項等について協議を進めているが、視察した内容を今後の議会運営に反映させていくよう努力していきたい。



文教厚生委員会行政視察報告

日時／十月十九日～二十日

視察地／高知県南国市

南国市では、「学校教育における食教育」、「次世代育成支援行動計画の策定」について調査した。南国市では、食育を教育の柱に加え、地産地消の学校給食を核とした食教育を進めている。また、次世代育成支援行動計画については、「家庭における子育てを基本とし、地域みんなで子どもの成長を支え、子どもの利益が最大限に尊重されること」を基本理念として先行的に策定している。これら視察を行った事項を参考に、今後の本市の施策に活かしていきたいと考えている。



議会広報委員会視察報告

日時／十月二十五日～二十六日

視察地／全国市議会議長会、日本広報協会

全国市議会議長会、日本広報協会では、市議会だよりの編集方法等について調査研究を行った。全国市議会議長会では、多くの市議会の広報紙の閲覧を行い、親しみやすい紙面について調査した。

また、日本広報協会では、七月中旬に行った市議会だよりに関するアンケート調査の結果について報告を受け、今後の市議会だよりの編集について協議を行うとともに調査研究を行った。今回調査研究したことについては、市議会だよりがより良くなるよう活かしていきたい。

